

わが国における畑作物の国内生産と輸入

Domestic production and import of upland crops in Japan

○河野英一* 猪口琢真** 笹田勝寛* 石川重雄*

Eiichi KOHNO, Takuma INOKUCHI, Katsuhiko SASADA, Shigeo ISHIKAWA

1. はじめに

乾燥地の西南アジアやアフリカの諸国で人口がますます増加して、世界の多くの国や多くの地域で厳しい食糧難と飢餓が発生するようになるといわれている。このため、食料の極めて多くを外国に依存しているわが国へ、いつまで現在の安定的な食料の輸入が可能であるのかが大いに懸念されるところとなっている。

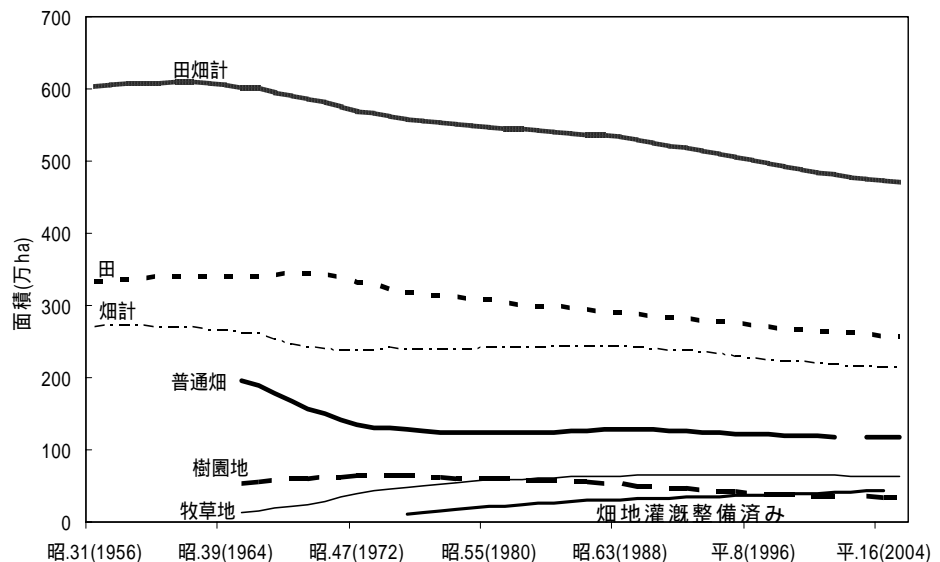
そこで、本論では、わが国の畑地農業の将来を展望するための一つの話題として、耕地面積や畑地灌漑整備済み面積、畑作物の国内生産や輸入等についてのものを提供したい。わが国の畑作における振興と作物自給拡大のあり方、それらへの畑地かんがいの関り等についての論議の一助となれば幸いである。

2. 耕地面積

わが国の耕地面積の昭和31年からの推移は図-1に示す通りである。わが国の田畑合計面積は、平成7年に500万ha台であったのが、平成7年～10年で毎年4万ha台、平成14年まで毎年3万台、平成16年まで毎年2万ha台と減少して、最新データの平成16年に471万haとなっている。平成16年における合計面積のうちの214万haが畑面積、このうち畑地灌漑整備済み面積は20.6%の44万haである。

3. 畑作物の国内生産と輸入

わが国の主要畑作物は、ばれいしょ、だいこん、キャベツ、未成熟トウモロコシ(スイートコーン)、ほうれんそう、ねぎ、たまねぎ、レタス、はくさい、にんじん、かぼちゃ、さといも、すいか、きゅうり、トマト、



えだまめ、なす、メロン、
ブロッコリー、ごぼう、

図-1 各種耕地面積の推移

Fig.1 Changes of various cultivated land areas.

*日本大学生物資源科学部 College of Bioresource Sciences, Nihon University

**日本大学大学院生物資源科学研究科 Graduate School of Bioresource Sciences Nihon University

キーワード：畑作物、国内生産、輸入

やまのいも、さやいんげん、いちご、さやえんどう、かぶ、れんこん、ピーマン、カリフラワー、セルリー、アスパラガス、こまつな、しゅんぎく、しょうが、そらまめ、ちんげんさい、にら、ふき、みつばの 38 種類である。

最新データの平成 16 年における畑作物の作付面積上位 20 位は、ばれいしょ(87.2 千 ha)、だいこん(40.0 千 ha)、キャベツ(33.3 千 ha)、未成熟トウモロコシ(26.9 千 ha)、ほうれんそう(23.8 千 ha)、ねぎ(23.5 千 ha)、たまねぎ(23.1 千 ha)、レタス(21.8 千 ha)、はくさい(20.2 千 ha)、にんじん(19.5 千 ha)、かぼちゃ(16.8 千 ha)、さといも(15.8 千 ha)、すいか(13.9 千 ha)、きゅうり(13.7 千 ha)、トマト(13.1 千 ha)、えだまめ(13.1 千 ha)、なす(11.7 千 ha)、メロン(11.1 千 ha)、ブロッコリー(10.0 千 ha)、ごぼう(9.24 千 ha)である。同年における畑作物の収穫量上位 20 位は、ばれいしょ(288.80 万 t)、だいこん(162.00 万 t)、キャベツ(127.90 万 t)、たまねぎ(112.80 万 t)、はくさい(88.76 万 t)、トマト(75.49 万 t)、きゅうり(67.30 万 t)、にんじん(61.57 万 t)、レタス(50.93 万 t)、ねぎ(48.55 万 t)、すいか(45.40 万 t)、なす(39.02 万 t)、ほうれんそう(28.87 万 t)、未成熟トウモロコシ(26.56 万 t)、メロン(24.86 万 t)、かぼちゃ(22.55 万 t)、いちご(19.82 万 t)、やまのいも(19.79 万 t)、さといも(18.48 万 t)、ごぼう(17.15 万 t)である。えだまめとブロッコリーは作付面積を広く要する割に収量が低いために収穫量上位 20 位に入らず、いちごとやまのいもは作付面積をそれほど要しない割に収量が高いために作付面積上位 20 位に入る。これらの順位はデータ初年の昭和 48 年から、前後の多少の入れ替わりはあるが、ほとんど変わらない。

最新データの平成 15 年における畑作物の輸入量上位 20 位は、生鮮たまねぎ(24.3 万 t)、冷凍ばれいしょ(23.9 万 t)、トマト加工品(17.8 万 t)、生鮮かぼちゃ(14.0 万 t)、生鮮ブロッコリー(6.6 万 t)、生鮮ごぼう(6.3 万 t)、冷凍えだまめ(6.1 万 t)、生鮮にんじん・かぶ(5.5 万 t)、乾燥野菜(5.4 万 t)、冷凍さといも(4.9 万 t)、冷凍スイートコーン(4.8 万 t)、生鮮しょうが(4.6 万 t)、生鮮ねぎ(4.5 万 t)、生鮮果菜類(4.3 万 t)、塩蔵きゅうり・ガーギン(3.8 万 t)、生鮮キャベツ等(3.7 万 t)、塩蔵しょうが(3.6 万 t)、酢調整野菜(3.5 万 t)、生鮮さといも(3.0 万 t)、冷凍いちご(2.9 万 t)である。これらのうち、輸入国について 1 位中国が 9 作物、2 位中国が 3 作物、3 位中国が 1 作物と多くの作物が中国からのものである。また、上位 20 位中の全ての 10 生鮮畑作物は保冷等により生鮮度がある程度長く保てるものでもある。

4. 今後の課題

食料生産の厳しい乾燥地での人口増加、中国における食料生産の現状保持への不安、バイオエネルギー原料としての食料源利用の勃興等によるわが国の食料輸入依存の危機への対策は差し迫った課題といえる。このためには、来るべき畑作物の国内生産拡大に備えた畑地を中心とする各種基盤整備対策が不可欠である。

[引用文献]

- 1) 農林水産省：農林水産統計情報総合データベース，(オンライン)，<<http://www.tdb.maff.go.jp/toukei/>>
- 2) 国土交通省：平成 18 年版日本の水資源について～渇水に強い地域づくりに向けて～，(オンライン)，<<http://www.mlit.go.jp/tochimizushigen/mizsei/hakusyo/H18/2-2.pdf>>
- 3) 農業土木学会(2000)：改訂六版 農業土木ハンドブック 本編，p.34.